

No.186
2019.7.23

響き

荘原コミュニティセンター報

荘原のうごき

令和元年6月30日現在

世帯数.....2,495戸

男性.....3,538人

女性.....3,790人

合計.....7,328人

発行／荘原コミュニティセンター

出雲市斐川町井原3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

つながる荘原 笑顔の未来
いかそう 人を 歴史を 資源を

まちづくり部

「じぶんの町を好きになる」ワークショップ 自主企画事業

大盛況のうちに幕を閉じた「ひかわキレイマルシェ」。その中で「くらしアトリエ」さんによる「じぶんの町を好きになる」ワークショップが行われました。そこで教えて頂いたのは、シビックプライド(Civic Pride)というキーワードでした。

シビックプライドとは、自分の住む地域や、働く場所に対して持つ「愛着」や「誇り」をあらわす言葉で、「郷土愛」と似ていますが、自分がその地域を形成している一員であるという当事者意識を伴う気持ちなのだそうです。

ワークショップ終盤で、講師の「くらしアトリエ」さんから寄せられたのは「大切な人が遠くから自分の地元に来られたら、どこをどんな風に紹介しますか?」という問いかけ。参加者は、自分の好きな場所やその理由を考え、選り、それぞれに自分の好きな風景や店舗などを挙げていました。

こうして問いかけられてみると、田舎暮らしはついその不便さにばかり目が行きがちですが、一方で、ここにしかない、ここだからこそその魅力が沢山あること、そしてその魅力は人の数だけあるのだと気付かされ、ワークショップを受ける前よりもっとじぶんの町への興味が増し、そして自然と好きになっていきました。

「あなたは、じぶんの町のどんなところが好きですか?」



6/18
(火)

エコバッグ作り 自主企画事業

ふれあい交流部

斐川環境学習センターから、講師に田中明子さんをお招きし、新聞紙を使ってエコバッグを作りました。田中先生は、ビニールごみを減らしたいという思いから、この活動を始められたのだとか。他にも、おにぎりを包むラップの代わりに裏山から取ってきた竹の皮を使ったりもされているそうです。楽しくお話を伺いながら作業をしていると、あっという間に時間が過ぎていきました。カラフルな広告面を表にすることで、個性豊かなエコバッグが出来上がりました。手土産などを入れるのにも重宝しそうです。



6/7
(金)

笹巻きづくり 自主企画事業 東部保育園・荘原保育園

端午の節句に子どもの無事と成長を願って作られる「笹巻き」。今年も東部保育園、荘原保育園の皆さんと一緒に沢山の笹巻きを作りました。2園合わせて何と1,200本以上！ 沢山の笹巻きが出来上がると共に、園児の皆さんのほじけるような笑顔を見ることが出来ました。

笹巻きの前日には、ふれあい交流部員と東部保育園・荘原保育園の先生方で尾原ダムの周辺まで行き、笹を取りました。急な斜面に分け入り、笹巻きにちょうどいいサイズの笹を選んで収穫。ちょっと動いても汗ばむようなとても暑い日でしたが、皆さん汗だくになりつつも頑張りました。それもみな子どもたちの笑顔を考えればこそ！ です。

そして笹巻き当日。ふれあい交流部員、地域の方、保護者と共に子どもたちもせっせとお餅をこねたり丸めたり。可愛いエプロン姿で、「楽しい！」「ちょっと難しいな～」「おれ、いっぱい食べる！」「上手に出来たよ」…等々、楽しくお喋りをしながら作りました。

子どもたちも、自分たちで作った笹巻きは、格別に美味しかったはず。こうして楽しい思い出と共に伝統が受け継がれていくといいですね。



6/4
(火)

さつまいも・大豆作りに挑戦！

自主企画事業

子ども倶楽部



今年度も引き続き荘原幼稚園・東部保育園・荘原保育園の3園合同で斐川第一体育館北側の畑で無農薬でのさつまいもと大豆作りが始まりました。参加園児86名、先生、子ども倶楽部の部員総勢120名がずらりと並んで苗植えをする光景は圧巻でした。

これから秋の収穫に向けて水やりや草取りなど暑さのなか大変な作業もありますが、参加者全員で力を合わせ、交流を深めながら大切に育てます。

この活動を通して農作業の大切さを学び、また、一緒に活動することで世代間の交流につながることを目的としています。収穫したさつまいもは各園での食事に使うほか、地区の文化祭で焼き芋にします。また大豆は1～2月に各園で味噌作りに使います。



6/21
(金)

塩づくり&豆腐作り・街歩き(鵜鷺地区・鵜鷺げんきな会)

運営委員・専門部員研修

塩づくり・豆腐づくり



安全な食を求め、今回は、「鵜鷺げんきな会」で作られている藻塩、豆腐づくりを体験しに鵜鷺コミセンにおじゃましました。当日は塩と豆腐作り体験に加えて、日本食を見直そうとここ数年取り組んでいる大豆、もち麦粉等を使った「大豆御膳」を昼食に作りました。「鵜鷺げんきな会」の講師をしていただいた安部勇さんと鵜鷺コミセンの職員さんと一緒に交流会を兼ねた昼食会となりました。



大豆御膳



午後からの町並み探検は、北前船が盛んな明治期の家々が失われずそのまま現存し、かつて栄えた様子も想像することができる、タイムスリップしたようなひとときでした。



塩づくりに参加して 糸原 祐子

生まれ育った土地でなくとも、印象が強く心に残る場所があります。出雲大社の北に位置する出雲市大社町鵜鷺集落もその一つ。漁村ならではの地形や家並み、すべてがかもし出す空気感に癒されます。まるで、ひと昔前に戻ったようでした。

そんな鵜鷺にて、塩づくり体験をしました。地元の安部さんの指導で、しちりん炭をおこし、その上に、海水を入れたなべを置き、ただひたすら竹の棒でかき回し、沸騰するまで待つとなべの底に白い塩が固まって来ました。そして、その中へ、あらめのゆで汁を入れて、藻塩が出来ました。そのあと、乾燥させて完成

です。昔の人は、たいへんな作業で作っていたことがよくわかりました。貴重な体験でした。

そのあと、昼食をいただきました。大豆ごぜんに、地元の安部さん宅から、あらめの煮物、きゅうりの酢のものをいただきました。あらめの煮物は、格別の味でした。

昼食の後は、安部さんのガイドで、鵜鷺の集落を歩いて回りました。トンネルをぬけると、そこはタイムスリップしたかのようでした。以前は、百三十戸あったのに、今では、半分は空き家だと聞いて、どこも同じだなと感じました。

6/14
(金)

バラの花がら摘み

5月19日の「ひかわキレイマルシェ」の日に開花するように3月に剪定と追肥できれいに手入れをしました。例年より気温が低かったり雨が降らなかったりと心配しましたが、マルシェ当日には見事なバラの花を来場者の方々に見て頂くことができました。そして今回、地域の方に呼びかけ花がら摘みをしました。四季咲きのバラなので、こうして花がら摘みすることで一年中バラの花を楽しむことが出来ます。バラの栽培が地域に広がり、あちらこちらでバラの香りと花を楽しむ荏原の街になるとすてきだと思います。



7/4
(木)

荏原こどもエコクラブ

かかしづくり

荏原小2年生とエコクラブの皆様と一緒に木片を土台に服や帽子を着せて、かかしを作りました。早速エコクラブの皆様に、あいも田んぼへ4体立てていただきました。今年も豊作でありますように。



6/11
(火)

総会・講演会開催

荘原地区青少年育成協議会

総会では今年度の事業計画・予算が承認され、今年度も子どもたちが安心・安全に過ごせるように活動していきたいと思っています。

総会後は、荘原小学校、斐川東中学校の校長先生から子どもたちの学校生活の様子を話して下さいました。先生方が子どもたちをよく指導してくださっており、この大事な時期に豊富な体験を通して心身豊かに成長しているさまを知り、子どもたちの成長がますます楽しみにになりました。

また、斐川交番の曾田隆所長様には出雲市・斐川・荘原の状況を、そして、出雲警察署 生活安全課 藤井 睦様より「インターネットと子どもたち」と題してご講話いただきました。たくさんの方が使用している便利なインターネット。自分を守るために、「知らない人にメッセージや顔が写っている写真を送らない」「人に見られては困る写真は撮らない」「インターネットで知り合った人に会わない」そして「必ず信頼できる大人に相談する」ことが大事だとお話しいただきました。大人も子どもたちが被害に遭わないように、インターネットの利用を見守っていく必要があります。

子どもたちを巻き込んだ犯罪が多くなっています。厳しく、また温かい目で子どもを見守っていくことが地域でできる見守りではないでしょうか。



表彰

少年補導員としての長年の功労を称えて「中国少年補導員連絡協議会少年補導功労者表彰」を受けられました。



森 優子さん

6/18
(火)

斐川地域 合同一斉パトロール

6月18日(火)久木コミュニティセンター健康広場にて斐川地域合同一斉パトロールがありました。「荘原地区こどもの安全を守る会」から5人参加しました。



放課後こども教室

こどもクッキング・お花クラブ

放課後こども教室がスタートしました！

今年度もクッキング教室、お花クラブが始まりました。クッキングには男の子も頑張っています。なんといっても自分で作った料理は特別おいしいです。家庭でも家族と一緒に作って食べて欲しいと願っています。お花クラブは自分で気に入った花器を見つけ、お花も選びます。先生のお話に耳を傾け、すてきなお花が生けられます。時々コミセンの玄関に飾ります。地域の皆様に心豊かなひとときを過ごしていただきたいです。また、夏休みには、小学4年生～6年生、中学生にサマースクールも開催する予定です。



6/18
(火)

総会開催

出雲市環境保全連合会荘原支部

荘原支部の総会が開催され、57名の参加がありました。提出された今年度の事業計画案および予算案はすべて承認しました。

※総会資料(欠席の方には6月の広報配達時に配布済)にある「令和元年度環境美化活動計画書」の提出がまだの自治会がありましたら荘原コミュニティセンターまで提出をお願いします。FAXでの提出も受付いたします。



5/16
(木)

健康づくりの会



各自治会で地域ぐるみで健康に暮らせる取り組みをされています。例えば、常会の時の禁煙、みそ汁等の塩分を測る減塩の取り組み、健康ウォークでの体力づくり等様々です。5月16日におこなった役員会ではいろいろな飲料水の糖度を測ってみました。そしてスティックシュガー(3g)何本分が入っているのか前に並べてみました。意外とたくさん入っていてびっくりです。各自治会でも塩分測定器、糖分測定器を借りることが出来ますので、家庭の味を確認してみませんか。

お問い合わせは

斐川行政センター市民サービス課

電話 73-9112 または荘原コミュニティセンター
電話 72-4600 までお問い合わせください。

6/20
(木)

6/28
(金)

「ふれあい交流会」

おいでませの会

荘原小学校1年生

1年生の1組は20日に、2組は28日の朝、荘原コミセンの玄関に「おはようございます！」と大きな声でやってきました。「おいでませの会」の高齢者さんとの交流会です。歌や手遊び等ですっかり溶け込んでくれた1年生。あっという間の時間でしたが、みんなが幸せな気分になりました。「おいでませの会」の皆様笑顔あふれるお顔に交流会は素敵な会だなといつもながら感じます。



(荘原小1年生)



5/14
(火)

荘原幼稚園

(荘原幼稚園児)



荘原幼稚園園児との交流では、園児たちが歌やダンスを元気に発表する様子を会員のみなさんがにこにこしながら見ておられました。園児が会員とペアになっての手遊びでは、じゃんけんにも負けると肩もみをしてふれあい、やさしく話しかける会員の姿も見られました。みなさん楽しそうで笑顔が絶えませんでした。

核家族が増え、家におじいちゃん・おばあちゃんがいなくて寂しい家庭も多く、今回の交流が園児たちにとって高齢者を身近に感じるきっかけとなり、やさしい思いやりの心が育っていくことを願います。



6/19
(水)

女性の美しい体づくり

レクリエーション部 昌子 裕江



令和元年6月19日に勝部恵子様プロデュースのもとで「女性の美しい体づくり」を目指して1時間余り22名が、まめなが一番館で汗を流しました。尿漏れ予防ときれいな姿勢をいつまでも保つようと、骨盤の底で内臓を下から支える「骨盤低筋」の運動では締める・緩めるを繰り返し、自己コントロールできるように鍛えていきました。また股関節の衰えや障害を予防するためスクワットや椅子を使った運動・手足の動きによる脳トレなど様々に行い、終了後はお茶タイムでくつろぎました。

25周年1泊研修旅行

会長 田中 文子

新しい年号に変わった、この節目に「やまももの会」も25周年を迎え、見識と親睦を深める為に1泊研修を計画しました。年号が変わったことにより、太宰府天満宮がスポットを浴び、たまたま「やまももの会」の行程にあり、皆さん気持ちも新たに参拝されました。ボランティアガイドさんの説明によると、太宰府天満宮は菅原道真公をお祀りする全国12,000社の総本宮として称えられ「学問・至誠・厄除けの神様」としてのご崇敬を集め、年間に約1,000万人の参拝者が訪れているそうです。

「金子みすゞ記念館」では、自然の風景や生活を素直に見つめ、優しさにつらぬかれた彼女の作品に時の経つのも忘れ見入っていました。まるで21世紀を生きる私たちに大切なメッセージを伝え続けているようでした。

それからバスの中では、人権同和教育のDVDも見て勉強しました。それにしても皆さんの日頃の精進でしょうか？ 大雨の中出かけたにもかかわらず、皆さんの心が一つになったのか、雨をも寄せつけぬお天気となり、本当に「やまももの会」の絆を感じました。お互いを知るいい機会でもあったと思います。今後も、このパワーを生かして地域に貢献していきたいと思います。



「出雲空港の半世紀」

昭和41年当時の出雲空港



街角ウォッチング

「出雲縁結び空港」の年間利用者が、平成30年度に初めて百万人の大台を超え、1,012,807人となりましたが、開港直前の状況を少し紹介してみたいと思います。供用開始(開港)は昭和41年(1966年)6月30日、初便就航は7月11日で、10日余りずれています。出雲空港と同時期の7月1日に宇部空港が開港予定でした。大阪―出雲、大阪―宇部の両路線が、当時の東亜航空(TAW)と日本国内航空(JDA)の競願で、開港が近づいても、どちらが就航するのか分かりませんでした。両社は後に合併。会社(航空会社の出雲地区総代理店)には、日本国内航空の関係者が次々と来社して、「出雲―大阪は日本国内航空が就航するのが、既定の事実だから」と言われ、就航予定機材(フランス製のノール262:29人乗り)の運航関係の教育を受ける為、大阪空港(伊丹)へ行きました。数日が経過した開港日の前日、出雲は東亜航空に、宇部は日本国内航空に決定しました。急遽、東亜航空の本社がある広島空港(現:広島ヘリポート)に行き教育を受けることとなりました。大阪はYS-11(64人乗り)が就航、隠岐は天候不良で欠航となりました。開港当時の運賃は、大阪は5,500円、隠岐(ヘロン機、16人乗り)は2,900円でした。当時は利用者も少なく、昭和43年の一時期には大阪線が米子経由で運航され、出雲―米子の運賃は1,300円、所要時間は15分でした。この6月には韓国からの連続チャーター便が始まり、将来的な定期便化の足掛かりとして期待されています。出雲空港の愛称も「出雲縁結び国際空港」に変更される日も来るのではないのでしょうか。元氣な庄原を！

渡部 和夫

御礼

(ありがとうございます)

寿昌クラブ様

そうきんのご寄付

ご寄付御礼

香典返し 金一封

大場秀文 様(御射山 自治会)

池淵光徳 様(新生町 自治会)

木幡芳樹 様(中央東 自治会)

皆様からお寄せいただきましたお志は、庄原地区社会福祉事業に活用させていただきます。誠にありがとうございます。